

# 倉敷市立短大子どもの劇場

代表者：溝手恵里

所在地：倉敷市児島稗田町

## 演劇を通じた子育て支援活動

### ◎ 目的

私たちは「子どもたちの心に本当の食べ物を」をモットーに、子どもの心の糧となるような、幼児向けの人形劇や劇を制作し、公演を行っています。演劇という健康的で臨場感あふれる明るい生の児童文化を提供することで、幼児はもちろんのこと、その保護者も楽しみながらふれあい、感動を共有し育ちあうことを通して、子育て支援の一端を担うことを主な目的として活動しています。

### ◎ 経過

倉敷市立短大子どもの劇場（倉敷市立短大児童文化部から2007年4月に改称）は、1982年の創部以来、27年間、子どもたちの健全な成長を願い、質の高い児童文化の創造のために努力してきました。現在では、地域の方々にも認められ、多くの公演依頼を受け、保育園や幼稚園、児童館などで人形劇や劇などの公演を行っています。

平成20年度は下記の公演を含め20回の公演を行いました。

- 5月5日 「端午の節句だ！後楽園」 場所：後楽園  
紙芝居「ぶたはイヤ」  
人形劇「みんなで歌うっていいものだ」、「でっかい仲間たち」
- 5月11日 「倉敷っ子フェスティバル」公演 場所：児島児童館  
人形劇「でっかい仲間たち」
- 12月6日 「第49回中・四国保育学生研究大会」  
場所：高松大学・高松短期大学  
劇「ともだちの森☆」
- 12月7日 「児島児童館幼児クリスマス会」公演  
場所：児島児童館  
人形劇「鬼の姫」  
劇「ともだちの森☆」
- 12月14日 「クリスマスコンサート くるみ割り人形 IN チボリ」公演  
ミュージックネットワークACORN主催  
場所：倉敷チボリ公園カルケバレン劇場  
劇「ともだちの森☆」
- 2月28日 子どもの劇場公演2009 場所：児島公民館大ホール
- 3月1日 「あつまれこどもたち！お話いっぱいはじまるよ！！」  
口演童話「あかずきん」、「3匹のやぎのがらがらどん」  
人形劇「空飛ぶリュックサック」、「鬼の姫」  
劇「わすれないでね☆」



劇・わすれないでね☆

◎ 成 果

私たちは、子どもたちが楽しんでくれることを一番に考え、劇という空間の中で子どもたちとさまざまな感情を共有できるような台本を脚色し、音楽を創作し、部員全員が一丸となって人形劇や劇の制作をしてきました。特に劇では、自分たちでテーマを決め、台本を一からつくりました。また、演じる側と観客側の双方がより一層物語の中に入り込めるように、舞台セットや衣装にもこだわりました。

今年度は保育園や児童館といった地域での小公演、ホールでの大公演で、たくさんの親子に人形劇や劇などを楽しんでもらうことができました。公演を通して、親子のコミュニケーションを深め、子どもたちの豊かな想像力を養う一助になったと考えられます。また、私たち自身も、自らの演劇的表現を向上させながら、親子を対象とした演劇の重要性を再確認することができました。

<p>倉敷市立短大（同市 児島穂田町）の学生サ ークル「子どもの劇場」 の定期公演が二月二十 八日と一日の二日間、 同市児島小川町、児島 公民館で開かれ、親子 連れが創作劇などを楽 しんだ。 地元・児島地区での</p>	<h2>友情訴え創作劇</h2> <p>倉敷市立短大サークル</p> <h3>子どもの劇場公演</h3>	
<p>が、人形劇や創作劇な どを披露した。 二日間共通の演目 で、公演の目玉となっ た創作劇「わすれない でね☆」では、クマや ウサギ、ブタなどにふ んした学生たちが、友 情の大切さなど訴える ストーリーを熱演。客 席の子どもたちは、子 席の子どもたちは、子 を捜すクマの母親に 「あっち、あっち」な どと声を掛けたりしな がら見入っていた。児 島小二年松原菜結さん （ハコ）は「動物の衣装が かわいく、話も楽しか った」と話していた。 （美濃政友）</p>	<p>創作劇を熱演 する倉敷市立 短大子どもの 劇場メンバー 定期公演 は、二〇〇 五年以来四 年ぶり。保 育学科と専 攻科保育臨 床専攻の部 員二十四人</p>	

山陽新聞（平成21年3月3日）

◎ 今後の課題と問題点

- 1、劇の内容を充実するためには、多くの経費がかかり、その資金の調達をいかにしていくかが課題です。
- 2、私たちの研究対象である乳幼児に向けた演劇の研究をさらに深め、演技力の向上や、更なる発展を目指して努力していきたいと考えます。

●執筆者：平松花居／協力者：嘉手納 歩、立花あずみ、中重沙菜江

● 会のプロフィール

【設 立】1982年

【会員数】26名

【活動歴】主に幼児向けの演劇の公演活動を年に30回程度行う。